

成果報告会

国内最大規模の交通ビッグデータの活用方策に関する共同研究

～ 産学官の連携により携帯電話基地局の運用データを
を基にした「人の移動実態の統計処理」を可能に ～

主催 国土交通省 国土技術政策総合研究所（国総研）

協力 (株)NTTドコモ、東京大学

2018年6月11日

国総研 関谷浩孝

共同研究の背景

「携帯電話基地局の運用データ」の特徴

➤ サンプル数が多く統計的信頼性が高い

- 携帯電話 7,600万台（法人名義の端末を除去）
- 特定のアプリの使用を伴わない
（携帯電話がどの基地局エリアにあるか周期的に把握）

➤ 統計処理後の情報

- プライバシー保護のための非識別化・集計・秘匿処理
- 移動実態を把握するには、目的に応じた各種の「推計」が必要

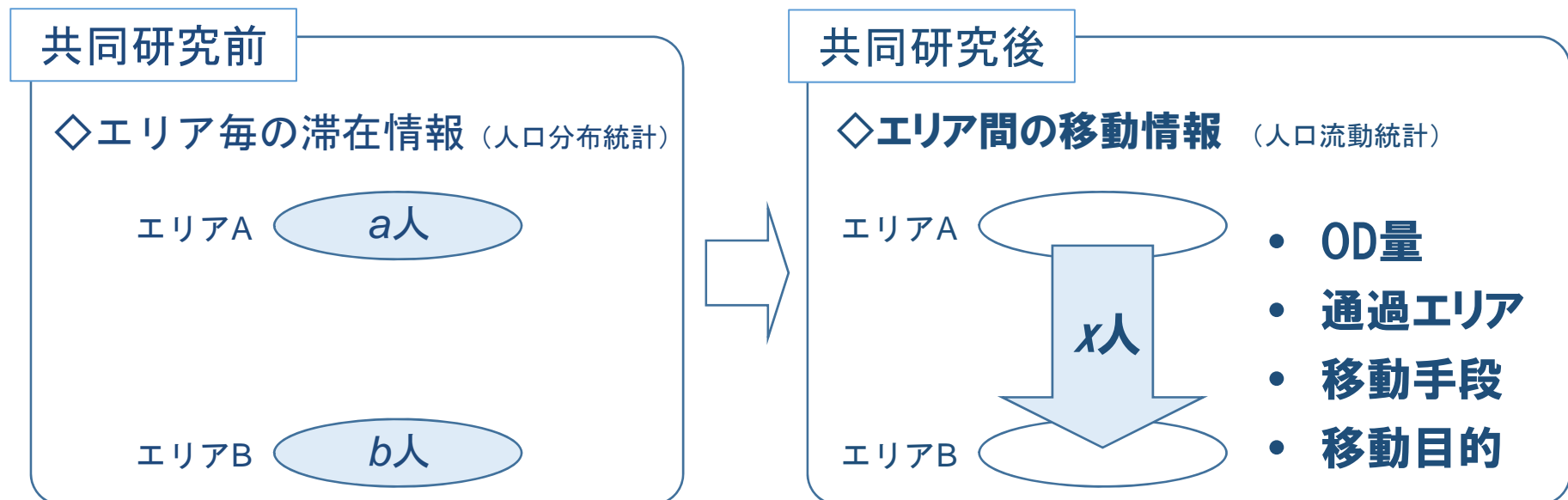


モチベーション

お宝データを都市交通計画等で活用できるようにしたい

共同研究の概要

- 目的 「携帯電話基地局の運用データを基にした人の移動に関する統計情報」の都市交通計画などでの活用可能性を明らかにする
- 期間 2014年7月～2017年9月
- 体制 (株)NTTドコモ (推計手法の開発)
東大、国総研 (活用ニーズ、有用性等の評価)



成果報告会プログラム

第Ⅰ部 共同研究の主な成果

- 交通関連ビッグデータの効果的な活用のための視座
- 携帯電話基地局の運用データから生成される人口流動統計とは
- 共同研究成果の主な内容とポイント

◇質疑応答 20分

(休憩 15分)

第Ⅱ部 活用事例

- 人口分布統計（エリア毎の滞在情報）の活用事例×2
- 人口流動統計（エリア間の移動情報）の活用事例×3

◇質疑応答 20分